

# 令和4年度 秋季東京都高等学校野球大会

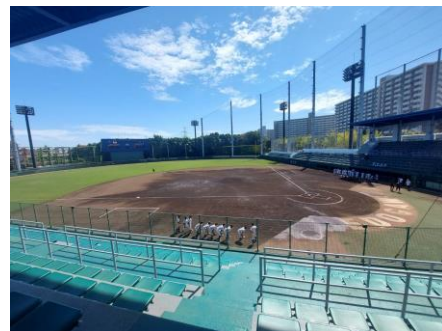
## 一次予選 1回戦

2022年9月10日(土)

会場校   関東第一		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
プレイボール   12:40	<b>井草・桜修館・大泉・田柄</b>	0	2	2	0	2	0	0									6
ゲームセット   14:55	<b>日比谷</b>	1	2	0	1	7	3	X									14

<b>先攻</b>	<b>井草・桜修館・大泉・田柄</b>	<b>後攻</b>	<b>日比谷</b>	<b>備考</b>
<b>投手</b>	千葉 民野 青木	<b>投手</b>		【一回戦】7回コールド
<b>捕手</b>	出石	<b>捕手</b>		
<b>本塁打</b>		<b>本塁打</b>		
<b>三塁打</b>		<b>三塁打</b>		
<b>二塁打</b>	須藤	<b>二塁打</b>		

今大会から、桜修館を加えた4校の連合で公式戦に出場することとなり、大きな戦力が加わった。



初回、日比谷は先頭打者のツーベースヒットをきっかけに1点を先制するが、直後の2回に連合は、6番青木(=大泉)のタイムリーや相手内野手のエラーも絡み、逆転に成功。その後は点の取り合いとなり、両者主導権を譲らない緊迫した展開となる。



新チーム結成後の練習で積極性を評価された田柄高 大野 啓司



夏の期間、気迫あるプレーをみせた田柄高 新内 一之介

試合が大きく動いたのは、5回だ。4つの四死球からチャンスをつくった日比谷は、4本の長打を含むヒットを量産し、打者11人の猛攻を見せ、一挙に7点を返して逆転。このまま主導権を握る。

6回に入ると、連合も1アウト満塁とし、この試合一番の

チャンスが訪れる。しかし、5番須藤(=大泉)の三振、6番青木のセカンドゴロによる3者残塁で、ホームベースが遠ざかっていく。結局、8点差がついた7回の攻撃も1アウトランナー2塁のチャンスをつくったものの、最後の打者1番民野(=桜修館)がファーストゴロで凡退し、7回コールドゲームとなった。田柄からは大野啓司がレフトキャッチ、サブキャッチャー、ランナーコーチなど、多くのベンチワークをこなし、存在感を發揮した。

### <部員よりご挨拶>

新チームでは、背番号はレギュラー番号ではありませんでしたが、冬の練習強化で必ず主力になれるよう頑張ります。応援、よろしくお願い致します。